

地域人

vol. 39



「元気な故郷、 住みやすい町を目指して」

旭町和田公民館 館長 早田 末男
(わさだ・すえお)

今回の「地域人」は、旭町和田公民館 館長として活躍しておられる早田 末男さんをご紹介します。

私は熊本県生まれで、大阪に就職して生活していました。私が50歳の時の平成10年に、島根県より来られていたふるさと定住財団の方に、興味のある林業の仕事を紹介され家族で移住しました。いわゆる1ターンで旭町にお世話になり、もう21年が経過しました。林業の仕事を約10年努めましたが、予期せぬ腰痛の悪化でリタイヤし、回復後には和田地区にある福祉施設(やすらぎの郷、あさひ園、ひまわり工房)で施設維持や送迎などを手伝っていました。約3年前に和田地区の公民館運営を依頼され、館長として現在に至っています。この仕事を簡単に引き受けてしまったのですが、この和田地区のことを詳しく知っているわけではなかったため、最初の頃はとても苦労して、何故引き受けたんだろうと悔やんだこともありました。

毎年恒例になっている地域の祭り事、町作りでの行事、公民館の事業に参加して思うのは、参加して下さる方は快く参加していただけるのですが、参加人数が少ないことです。先日、集落のサロンに軽い健康運動の指導に行った際、運動のことは大変良いのだが、高齢で足が悪くなり外出しにくかったり、会場への足の確保が難しい(行政ではデマンドバス、タクシーを運行してくれています)との意見を聞きました。送迎の問題点は考えていかなければなりません、住民の方にとっては地区の情報を少しでも早く知りたいとも思いますので、常に話し相手になって公民館へ多くの地域の方が寄り合い話し合える場所になるように心がけています。

公民館事業として、空き地を利用した野菜作り教室も行っています。旭町には矯正施設がありますが、そこから若いご夫婦や、小学生以下のお子さんも多く参加していただいています。子供たちには土遊びや水遊び、芋掘りなどが人気があり、いつの時代もどこの子供も変わらないなと思いました。意外に思ったのは、子供たちだけでなく、親御さんの中にも落花生がどこに実が付くのか知らなかったり、実がなる場所も初めて見る方

が多かったことです。農村で育っていない方にはわからないのは当たり前かもしれませんが、自分で栽培してみても生産者の苦労も実感されたようです。

今後は、地域の高齢化に伴い田畑の耕作放棄地が増えていくことが予想されます。その対策として、今年は公民館で有志を募り、エゴマを実験的に栽培してみました。これが予想していたほどに手間がかからず、少しではありますが収穫まで出来ました。エゴマは需要がありますので、耕作放棄地対策には効果があると思われます。食べると十年長生きが出来る謂われから、ある地方では「ジュウネン」と呼ばれているそうです。これからもエゴマの栽培にチャレンジしていきたいと思います。

最後になりましたが、地域の皆さんが草刈りなどボランティアとして公民館を助けていただいています。ここで御礼を申し上げると共に、これからも地域の方と相談しながら、高齢者を盛り上げ、元気な故郷・住みやすい町作りに頑張っていきたいと思っています。



野菜作り教室の風景